



SL銀河(イメージ)



宮沢賢治の生涯

明治29(1896)年	誕生	8月27日(戸籍簿では8月1日)、現在の花巻市豊沢町に出生。父政次郎(22歳)母イチ(19歳)の長男。家業は質・古着商。★三陸大津波。陸羽大地震。
明治36(1903)年	7歳	町立花巻川口尋常高等小学校に入学。
明治39(1906)年	10歳	小学4年生。父らの花巻教会夏期講習に参加。★東北大飢饉窮民多数。
明治40(1907)年	11歳	小学5年生。鉱物好きで「石コ賢さん」といわれる。
明治42(1909)年	13歳	県立盛岡中学校(現盛岡第一高校)入学。寄宿舎生活。鉱物や植物採集に熱中。
大正4(1915)年	19歳	盛岡高等農林学校(現岩手大学農学部)首席入学。寄宿舎生活。級長。『化学本論』愛読。★岩手軽便鉄道開通。
大正6(1917)年	21歳	3年生。特待生、旗手、級長。下宿。『アザリア』発刊。江刺郡地質調査。★岩手県豊作。
大正7(1918)年	22歳	高農研究生。徴兵検査、兵役免除。稗貫郡土性調査。童話創作開始。在京中の妹トシ希み、上京して看病。
大正10(1921)年	25歳	父の改宗ならず家出上京。自活しつつ国社会奉仕活動。多くの作品創作。稗貫農学校教諭。★原敬暗殺。
大正11(1922)年	26歳	農学校教諭。学校の精神歌や応援歌を作り自作劇上演。11月27日トシ24歳で永眠。★アインシュタイン来日。
大正12(1923)年	27歳	農学校新築移転県立昇格。自作劇上演。樺太への旅。挽歌群制作。★関東大震災。
大正13(1924)年	28歳	花農教諭。心象スケッチ『春と修羅』、童話集『注文の多い料理店』刊行。
大正15・昭和元(1926)年	30歳	3月末、花農依願退職。羅須地人協会設立。
昭和2(1927)年	31歳	羅須地人協会活動。花巻温泉南斜花壇を造る。肥料設計書2千余枚書く。
昭和6(1931)年	35歳	東北砕石工場技師。石灰販売に奔走。石灰宣伝で上京中に発病、遺書を書く。11月3日、手帳に「雨ニモマケズ」を書き留める。
昭和7(1932)年	36歳	3月、『児童文学』第2冊に「グスコブドリの伝記」を発表。
昭和8(1933)年	37歳	『国訳妙法蓮華経』1千部の刊行頒布を遺言し永眠。★三陸大地震津波。岩手県豊作。

資料提供 / 宮沢賢治記念館

講師：牛崎敏哉氏



©岩手日報社

昭和29年、岩手県花巻市生まれ。岩手大学卒業。現在、宮沢賢治記念館学芸員。賢治に関する論考多数。59年より「劇団あす」を主宰し、宮沢賢治作品を中心に全国各地で上演している。絵本評論賞、国民文化祭岩手児童演劇脚本賞などを受賞。



深まる一冊

宮沢賢治コレクション1 銀河鉄道の夜
天沢退二郎・入沢康夫監修
栗原敦・杉浦静編(筑摩書房)

作品の最終形をほぼ全て網羅した最新作品集の第1巻。常用漢字体、現代仮名遣いを使い、これまでの研究を基にルビを振り、読みやすさを徹底した一冊。



I W A T E

岩手

第4回 第2部

幻想世界
“イーハトーブ”の
新検証
時空を超える宮沢賢治という現象



2019.5.12(SUN)16:30

幻想世界“イーハトーブ”の新検証 時空を超える宮沢賢治という現象

賢治がたびたび訪れたという
小岩井農場。雄大にそびえる
岩手山は、イーハトーブ火山
として童話の中に登場する

1 文学、映画、音楽など 現代のヒット作に潜む宮沢賢治

2018年、宮沢賢治にまつわる2作品が第158回芥川賞・直木賞を受賞した。芥川賞は若竹千佐子著『おらおらでひとりいぐも』。賢治の詩「永訣の朝」の一節をタイトルに用いている。直木賞は門井慶喜著『銀河鉄道の父』で賢治の父、政次郎を通して賢治の生涯を描いた作品である。文学ばかりではない。近年、大ヒットした映画や音楽など、さまざまな作品に賢治が潜んでいる。そして賢治作品の中でも、ひときわ多くのアーティストに影響を与えていると思われるのが詩集『春と修羅』だ。若くして亡くなった妹への挽歌(追悼詩)を含むこの70編ほどの詩を、賢治は〈心象スケッチ〉と呼んだ。斬新で、幻想的で、ときに不可解でもあるその複雑な心の風景は、今も人々の創意をくすぐり“賢治作品の発展形”ともいえる世界観を生み出している。



『春と修羅』の初版本。
大正13(1924)年に初版1000部で
自費出版された(宮沢賢治記念館蔵)

2 温暖化の仕組みも、恐竜の存在も、 賢治は予見していたのか？

『グスコブドリの伝記』では、物語の最後に主人公ブドリが火山の噴火で大量の二酸化炭素を放出させ、イーハトーブを冷害から救う。今でこそ、二酸化炭素と温暖化の関係はよく知られるが、この童話がかかれた大正後期には、まだ定説ではなかった。また、

明治後期の鉱物の硬度計。賢治は盛岡高等農林学校で当時の先端科学に触れた(岩手大学農学部附属農業教育資料館蔵)

『楢ノ木大学士の野宿』で主人公は、夢の中で



恐竜に出会う。当時、日本列島に恐竜はいなかったと考えられていたが、それからおよそ半世紀後、岩手県岩泉町で恐竜の化石が発見される。賢治はまるで、このことを予見していたかのようだ。明治後期から大正にかけて、日本では欧米から取り入れた先進的な知識や技術、文化が国内に普及する。賢治の生きた時代はこれに重なる。岩手県は、文化的に立ち遅れてきた地域と思われがちだが、リンゴの品種や野球についての記述も登場する賢治の作品からは、決して時代に取り残されていない、近代の盛岡や花巻の姿が見えてくる。



3 地域性と先進性を融合した イーハトーブは実像の岩手県

賢治の作品に登場する「イーハトーブ」という言葉。童話集『注文の多い料理店』の広告チラシには、「ドリームランド」であり「日本岩手県である」と説明されている。そのせいか、イーハトーブは彼が岩手をモチーフに思い描いた理想郷だといわれる。しかし、すべてが夢想とも言い切れない。例え



自筆水彩画「日輪と山」。賢治は独特な世界観の水彩画を残している
(資料提供/林風舎)

ば『銀河鉄道の夜』の主人公・ジョバンニの父はラッコ猟師だが、当時の三陸にはラッコ王と呼ばれた猟師が実在し、ラッコの毛皮は国際的にも需要の高い高級品だった。イーハトーブの世界観は、当時の岩手の現実と微妙に重なり合っているのである。今も多くの人を魅了するイーハトーブは、彼が生まれ育った郷土の地域性と、明治・大正期の文化的な先進性を融合したものではないか。いわば、岩手の個性や魅力を、賢治特有の奇抜な想像力で表現した幻想世界だとも考えられるのである。